

アート之窗



美術館では、昨年に引き続き、今年も香美アートアニュアル展を開催します。2回目となる今年は、高知ゆかりのイラストレーター

の作品と仕事をご覧いただく展示となります。参加する9名のイラストレーターを紹介いたします。

小笠原まきは、癒やし系のイラストで、柔らかなタッチで描くメルヘンの世界を病院内の壁画に多く描いて

ています。カミムラアキコは、単純化された動物のイラストに特徴があり、そのかわいさを見る人を取りこにします。茂本ヒデキチ

香美アートアニュアルvol.2

—イラストレーターの仕事—

6月3日(火)～7月21日(月・祝)



▲gift/カミムラアキコ

物像や少レクセのある動物のイラストが特有の味わいを醸し出しています。デハラユキノリは、粘土によるフィギュア作品で有名です。彼の少しグロテスクでかわいいうキャラクターたちは、幅広い年齢層から支持されています。三本桂子は、親しみやすい味わいのあるイラストで、エネルギーにシチュにフィギュアや絵本作品に取り組んでいます。百田美賀は、都会的センスにあふれたイラストを描き、省略されたオシャレな表現が特徴です。森田将文は、漫画やアニメの世界につながる表現を展開し、細かく描かれた物語性のあるイラストが魅力的です。このように、個性豊かなメンバー9名の作家による、さまざまな表現のイラストレーションを見る事ができます。特に中学生など若い方々に見ていただき描くことがどのように仕事につながっていくのか、きつと何かヒントが得られるのではないかと思います。(館長・都築房子)

吉井勇記念館だより

紫陽花コンサート

ハーモニカアンサンブル演奏グループ、橋ハーモニカクラブの皆さんによるコンサートを開催します。

吉井勇作詞のゴンドラの唄をはじめ、懐かしい歌謡曲・童謡などが演奏されます。迫力あるハーモニカの音色をお楽しみください。

【日時】6月21日(土) 14時～
※13時10分～学芸員による展示解説あり(要入館料)

年間パスポートのご案内

年間パスポート会員になると、有効期間中に何回でも無料で入館できるほか、年3回の会報で、吉井勇や猪野々に関する情報、企画展の案内等をお届けします。

【申込先】〒781-4247 香北町猪野々514番地 吉井勇記念館
【注意事項】申し込み用紙提出後、年会費が入金された時点で会員となります。申し込み用紙は郵送もできますのでご連絡ください。

◆問い合わせ先 吉井勇記念館 ☎58・2220

香美市文芸 風の流

◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

春田役元親二町寺水路 福留とものり
久々に峡賑わしき鯉織 上池 児末
合歓の花こほかぎと呼ぶ母の里 森本 幸美
久しぶり座せば楽しき花むしろ 森本 純喜
五月鯉乗つて越えたい喜寿の坂 三谷 誠郎
庭の木刈り込み曾孫初職 高野 和一
茶摘みやめ六十年余なつかしき 有澤 春江
著我咲いて木下明るき宮の杜 岡田美代子
乾杯のコップに受ける花吹雪 森岡 秀野
したたかに降りて木の芽を起しけり 千頭 野草
石垣に山吹き垂れて高知城 北村千鶴子
粟播きて少し雀に残しけり 都築 忠義
梅の花香りとどかぬ院の窓 田嶋小恵子
昨日より今日風優し迎春花 相澤 睦子
ピンク色空にちりばめこぶし咲く 坂本美智子
部屋一面春陽遊びて老夫昼寝 小泉 子川
病む心癒やしてくる春の風 小原 景守
生け垣の刈り込み終えし五月晴 山崎 寿美
夕闇に白き紫陽花浮かびけり 山崎 貴子
バレンタイン孫と嫁との置きみやげ 楮佐古きよ
花かげにつるべのありてもらい水 門脇 千代

◆美良布俳句会◆

岡本かほる
明石ゆき糸

◆かがみ野俳句会◆

父と子の草笛付かず離れずに 佐竹 洋子
春野菜病後の体うるほして 佐藤 幸
わが余生終る日思ふおぼろかな 利根 弘子
買溜めの右往左往や弥生尽 古川 信子
草笛を競ふ墓前の三姉妹 小松 愛子
霧や影絵のごとき安房・上総 中澤 美晴
入学式終り帰る子声高し 森本 健代
草笛の音うらがへる昭和歌 山崎 鈴子
山桜読経の御衣風孕む 吉田 芳

◆かほく俳句会◆

代代の質素儉約かぼちや蒔く 乾 真紀子
湖の辺のさくら妖しき夕べなり 奥宮さとみ
梨の花咲いて齢を忘れけり 久保内鏡子
じゃが芋の爵位の種を植ゑにけり 小松 隆之
降りさうでどうにかもちぬ花の宴 小松 完
ぼうたんに蕾を授け上がる雨 小松 昇
小さき手を優しく握る花時雨 野村 里史
草刈機抱へ思案の畦に立つ 前田 智
水音の乗り越へる堰夏近し 森本 之子
遠蛙かの人の田を想ひけり 山崎かずみ
林道の終点一人静かな 山中 晶子
たんぼぼや二十年経し地震更地 山中 明石
往来を見守る地藏橋遅日 黒岩千英子
朴芽吹くやなせたかしの古里に 杉山 春萌

今月のキラリ

昨日より今日風優し迎春花
冬の寒さが3日続くと、次の4日間は温かい。三寒四温を繰り返しながら春を迎える。そんな春先の1日の感慨か。迎春花は黄梅のこと。

俳句・短歌の投稿方法

◆投稿方法は自由。住所、氏名、電話番号を明記してください。
◆俳句は偶数月、短歌は奇数月に掲載します。掲載月の前月の1日までに投稿してください。
◆誌面の都合により掲載されない場合があります。なお、選者の添削を不要とする方は添削不要と記してください。

【投稿先】総務課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
〒782-18501 (住所記載不要) FAX 53・5958